

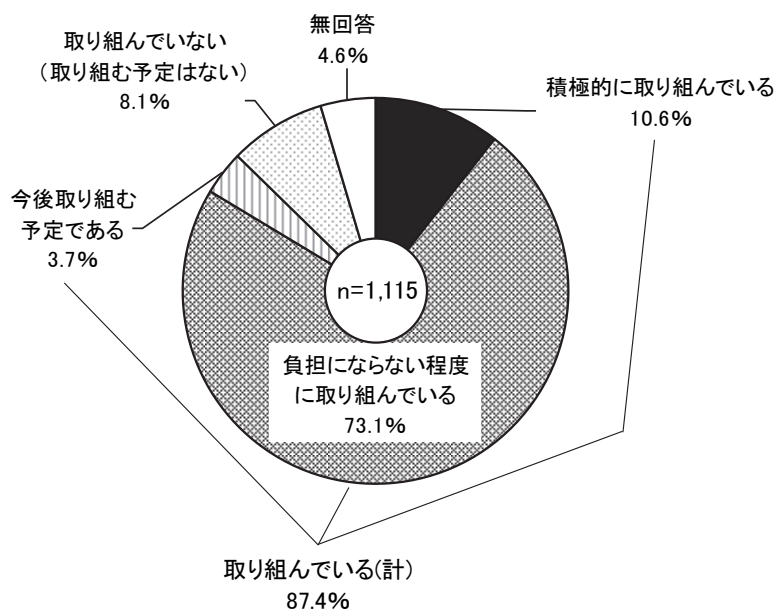
4 省エネルギーに関する意識や取り組みについて

(1) 節電等の省エネルギーの取り組み

◇『取り組んでいる』が9割近く

問36 あなたは、現在、節電等の省エネルギーの取り組みを行っていますか。(○は1つ)

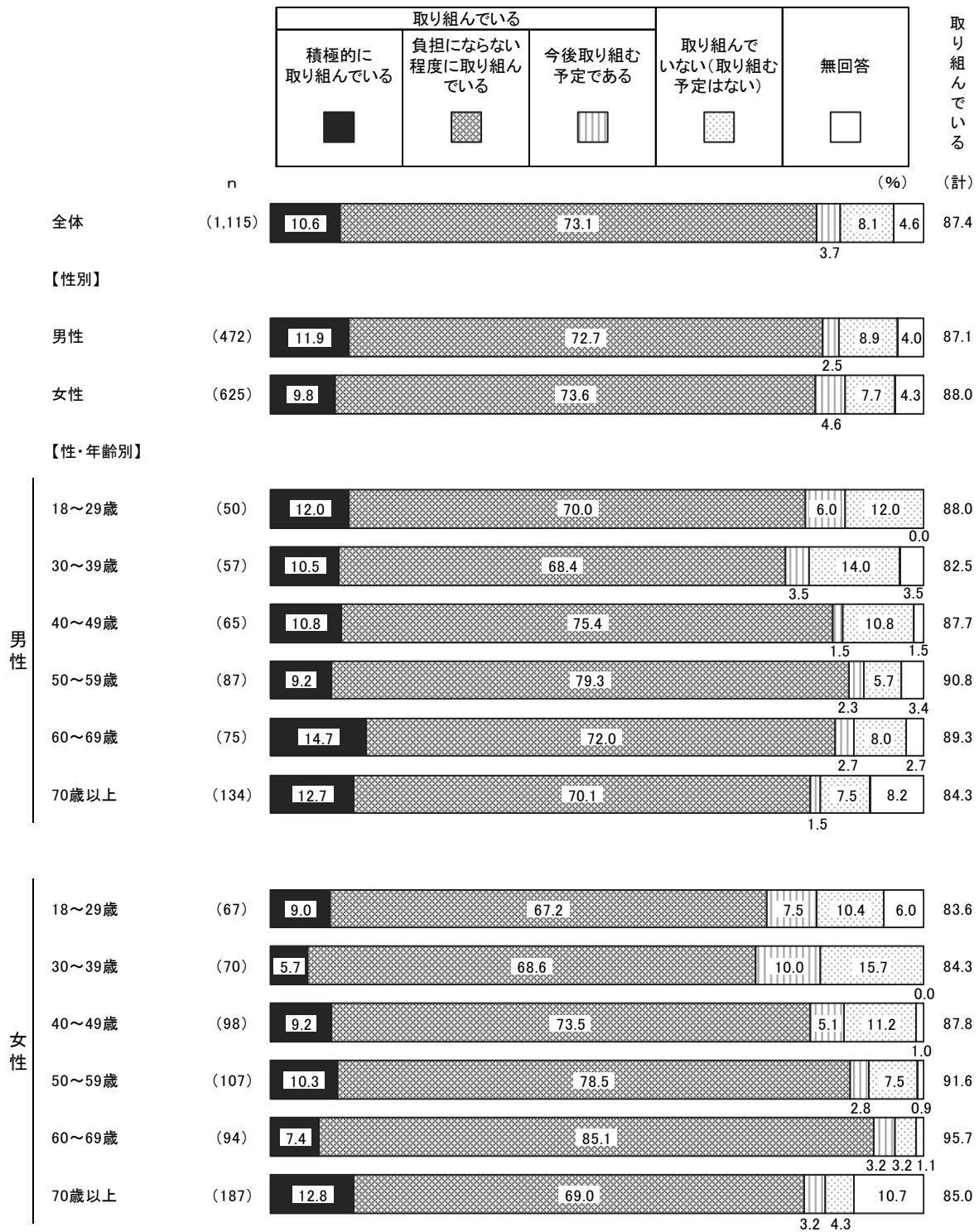
図4-1-1 節電等の省エネルギーの取り組み



節電等の省エネルギーの取り組みについて聞いたところ、「積極的に取り組んでいる」(10.6%)、「負担にならない程度に取り組んでいる」(73.1%)、「今後取り組む予定である」(3.7%)の3つを合わせた『取り組んでいる』(87.4%)が9割近くとなっている。一方、「取り組んでいない(取り組む予定はない)」(8.1%)が1割近くとなっている。

(図4-1-1)

図4-1-2 節電等の省エネルギーの取り組み—性別、性・年齢別



性別にみると、大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、『取り組んでいる』は女性60~69歳で9割半ばと多くなっている。一方、「取り組んでいない」は男性30~39歳、女性30~39歳で1割半ばとなっている。(図4-1-2)

(1-1) 具体的な取り組み内容

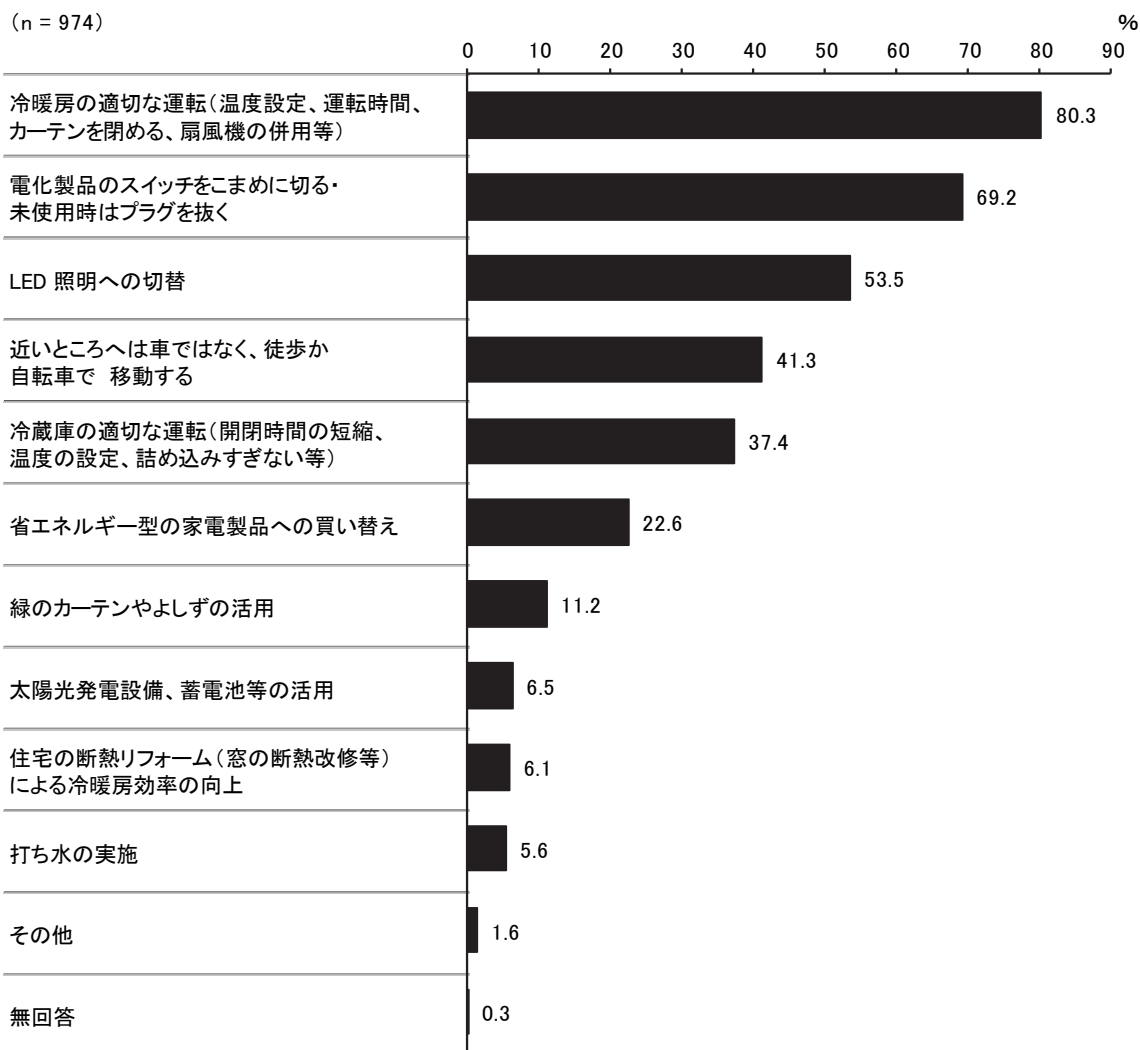
◇「冷暖房の適切な運転（温度設定、運転時間、カーテンを閉める、扇風機の併用等）」が8割

【問36で「積極的に取り組んでいる」、「負担にならない程度に取り組んでいる」、「今後取り組む予定である」と答えた方へ】

問36-1 どのような取り組みを行っていますか。（取り組む予定ですか。）

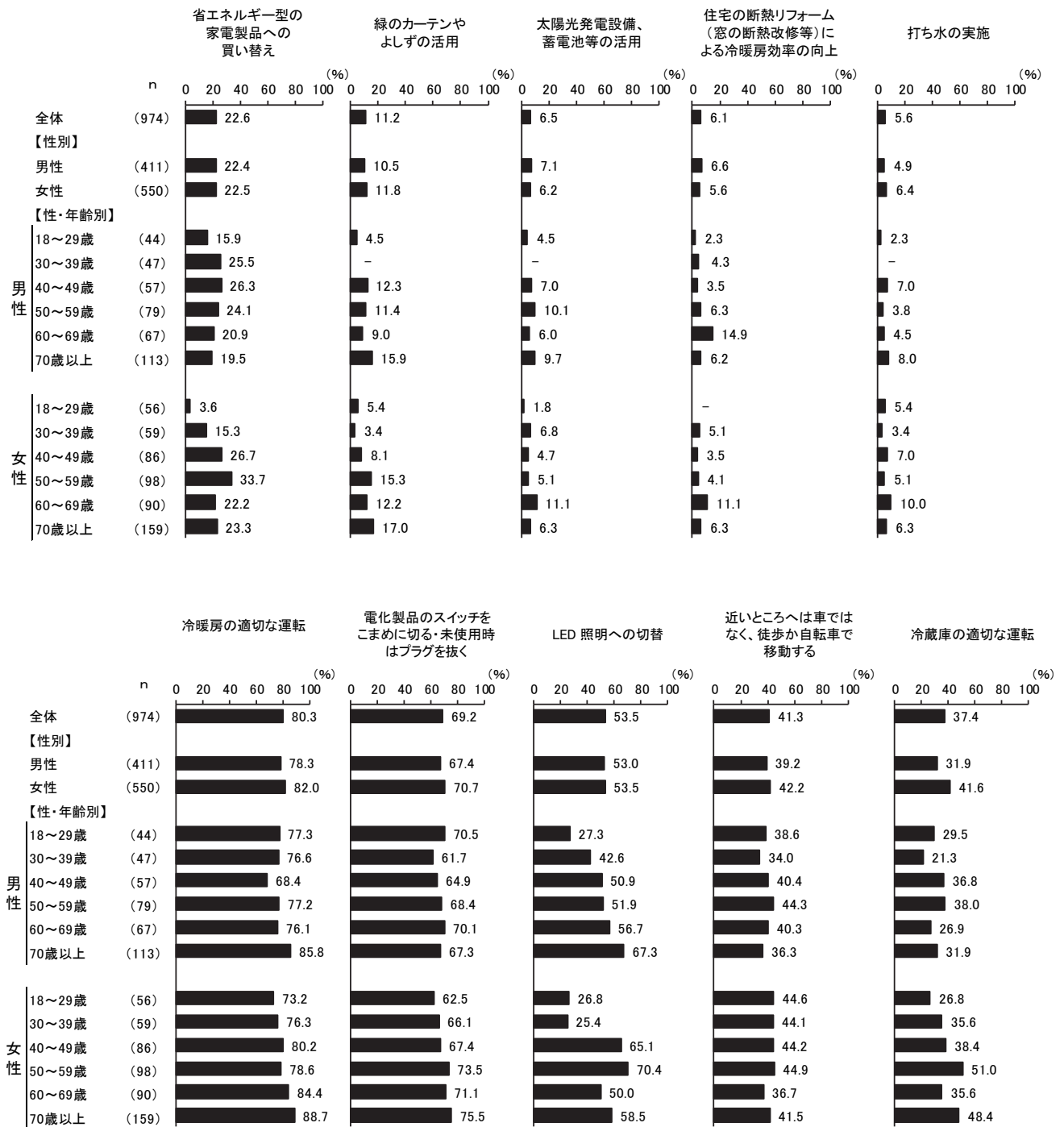
(○はいくつでも)

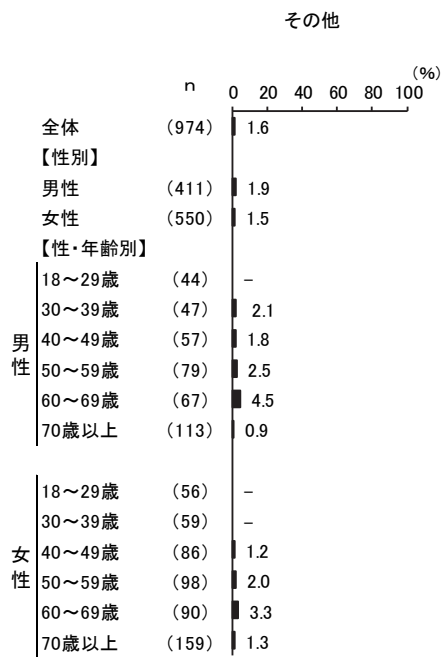
図4-1-3 具体的な取り組み内容



節電等の省エネルギーの取り組みについて「積極的に取り組んでいる」、「負担にならない程度に取り組んでいる」、「今後取り組む予定である」と答えた方(974人)に、どのような取り組みを行っているか(行う予定か)聞いたところ、「冷暖房の適切な運転(温度設定、運転時間、カーテンを閉める、扇風機の併用等)」(80.3%)が8割と最も多く、次いで「電化製品のスイッチをこまめに切る・未使用時はプラグを抜く」(69.2%)、「LED照明への切替」(53.5%)、「近いところへは車ではなく、徒歩か自転車で移動する」(41.3%)などの順となっている。(図4-1-3)

図4-1-4 具体的な取り組み内容—性別、性・年齢別



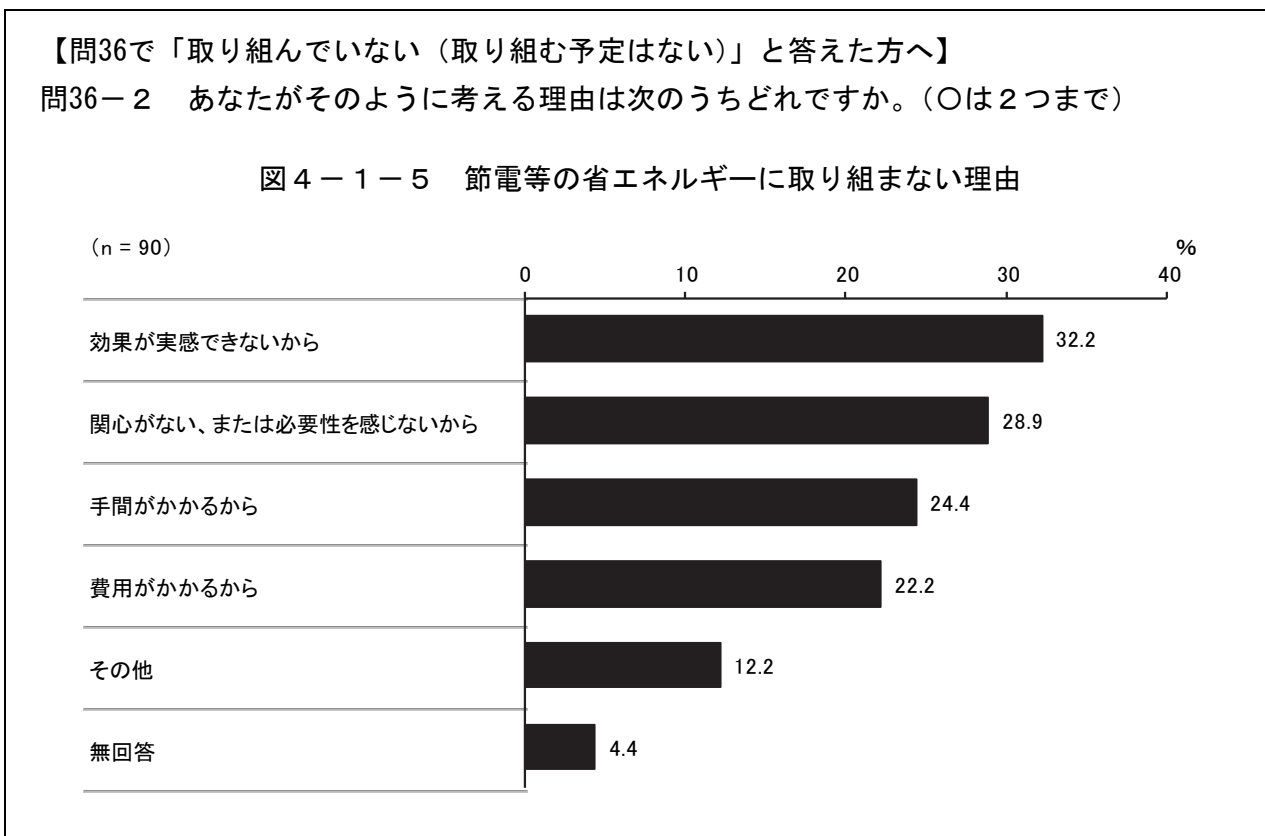


性別にみると、「冷蔵庫の適切な運転（開閉時間の短縮、温度の設定、詰め込みすぎない等）」は女性の方が男性より9.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「省エネルギー型の家電製品への買い替え」は女性50～59歳で3割を超えて多くなっている。（図4-1-4）

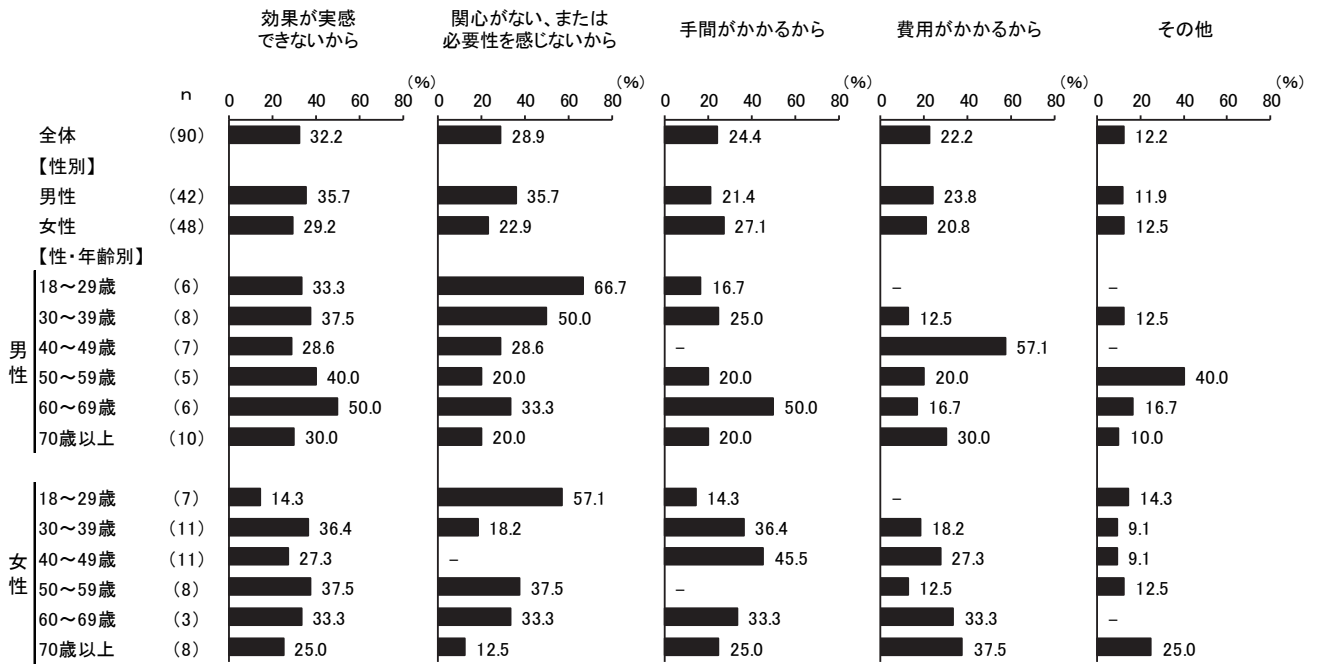
(1-2) 節電等の省エネルギーに取り組まない理由

◇「効果が実感できないから」が3割を超える



節電等の省エネルギーの取り組みで「取り組んでいない（取り組む予定はない）」と答えた方（90人）に、そのように考える理由を聞いたところ、「効果が実感できないから」（32.2%）が3割を超えて最も多く、次いで「関心がない、または必要性を感じないから」（28.9%）、「手間がかかるから」（24.4%）、「費用がかかるから」（22.2%）の順となっている。（図4-1-5）

図 4-1-6 節電等の省エネルギーに取り組まない理由—性別、性・年齢別



性別にみると、「関心がない、または必要性を感じないから」は男性の方が女性より12.8ポイント高くなっている。

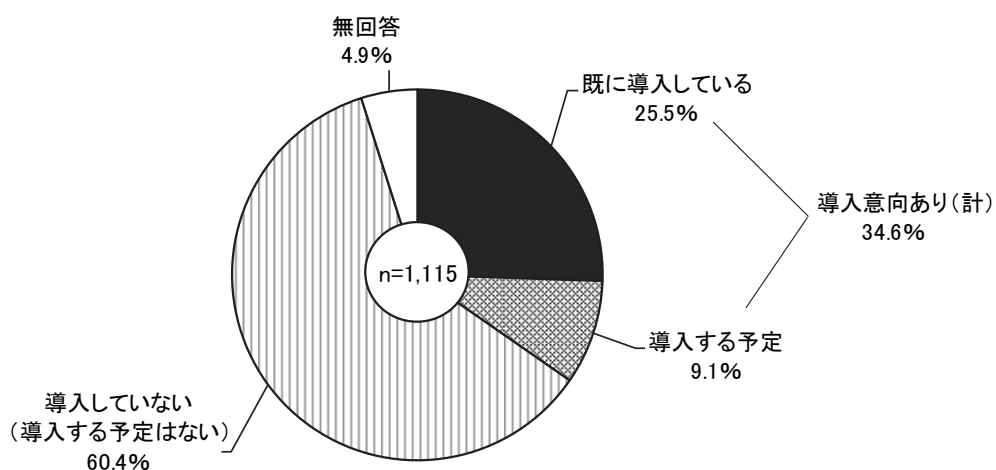
性・年齢別は基数が少ないため参考に図示する。(図 4-1-6)

(2) 自宅での再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入意向

◇『導入意向あり』が3割半ば

問37 つぎに、再生可能エネルギー・省エネルギー設備（以下、「再エネ・省エネ設備」という）についてお聞きします。あなたの自宅では、再エネ・省エネ設備を導入していますか。（○は1つ）

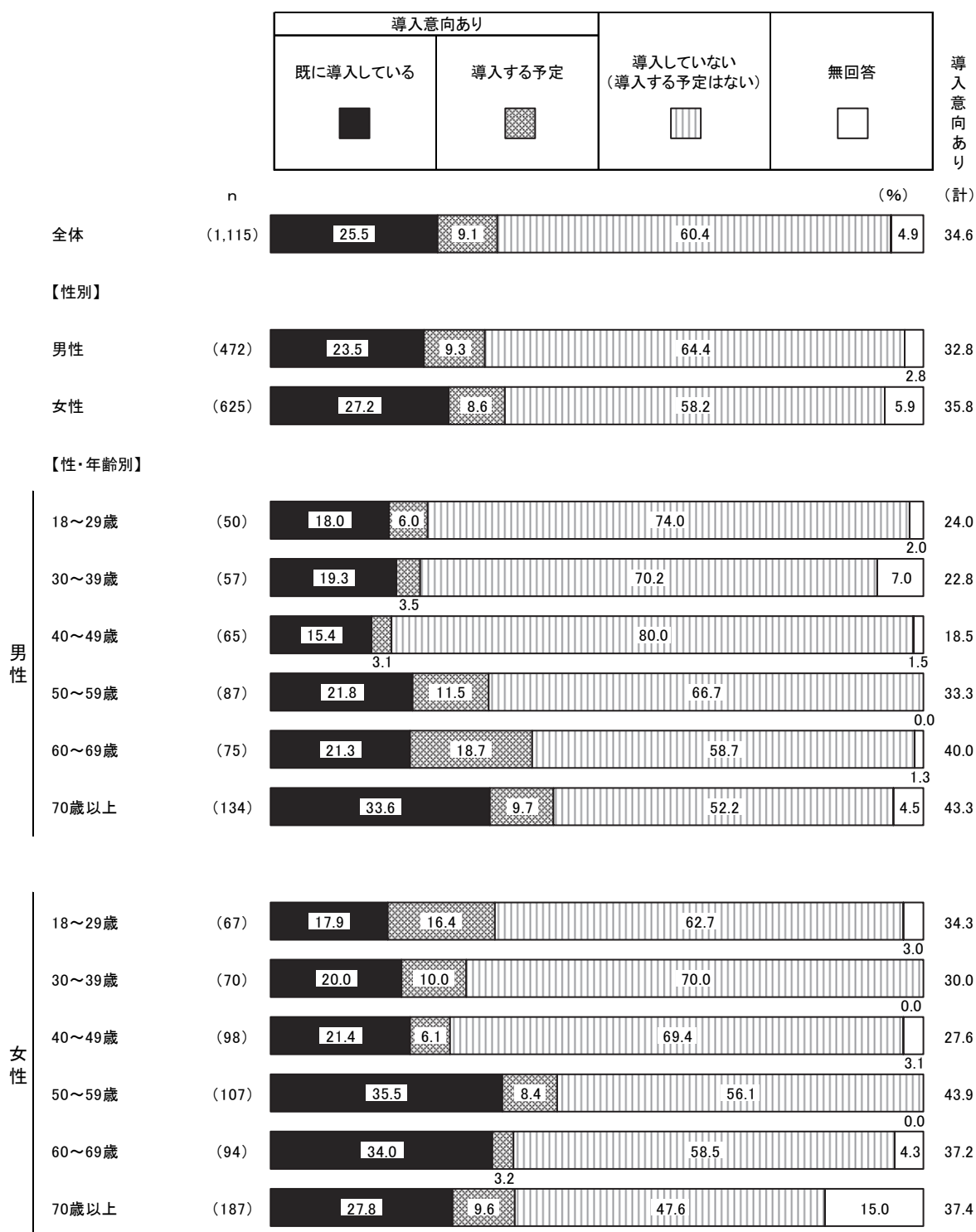
図4-2-1 自宅での再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入意向



自宅での再エネ・省エネ設備の導入意向について聞いたところ、「既に導入している」(25.5%)と「導入する予定」(9.1%)を合わせた『導入意向あり』(34.6%)が3割半ばとなっている。一方、「導入していない(導入する予定はない)」(60.4%)が6割と多くなっている。

(図4-2-1)

図4-2-2 自宅での再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入－性別、性・年齢別



性別にみると、『導入意向あり』は女性の方が男性より3.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『導入意向あり』は男性70歳以降、女性50～59歳で4割を超えて多くなっている。(図4-2-2)

(2-1) 再エネ・省エネ設備の導入理由

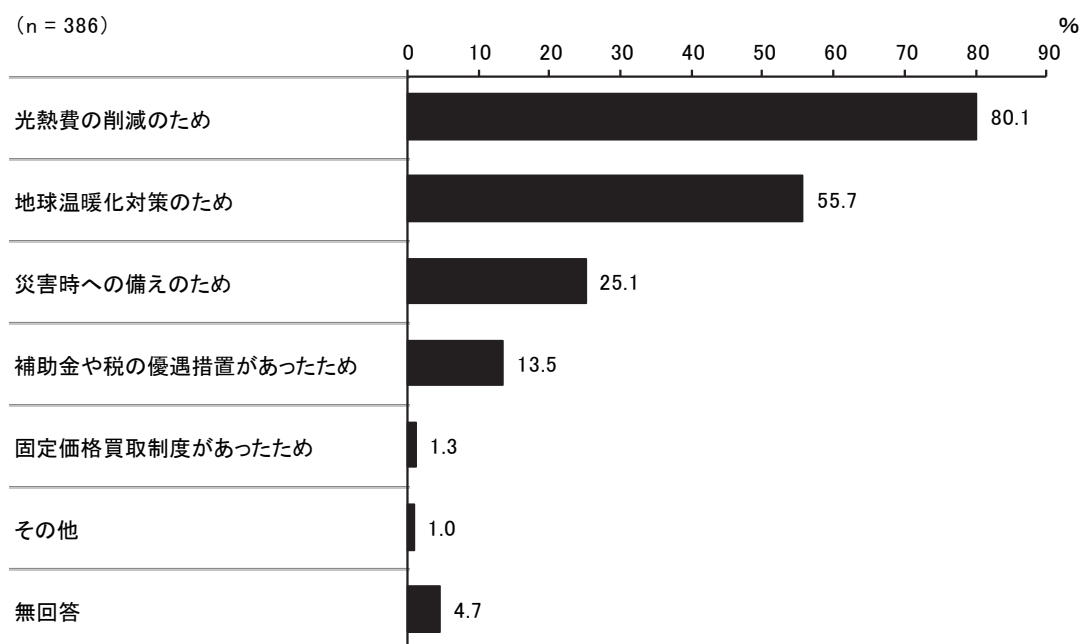
◇「光熱費の削減のため」が8割

【問37で「既に導入している」または「導入する予定」と答えた方へ】

問37-1 再エネ・省エネ設備を導入した（する）理由は次のうちどれですか。

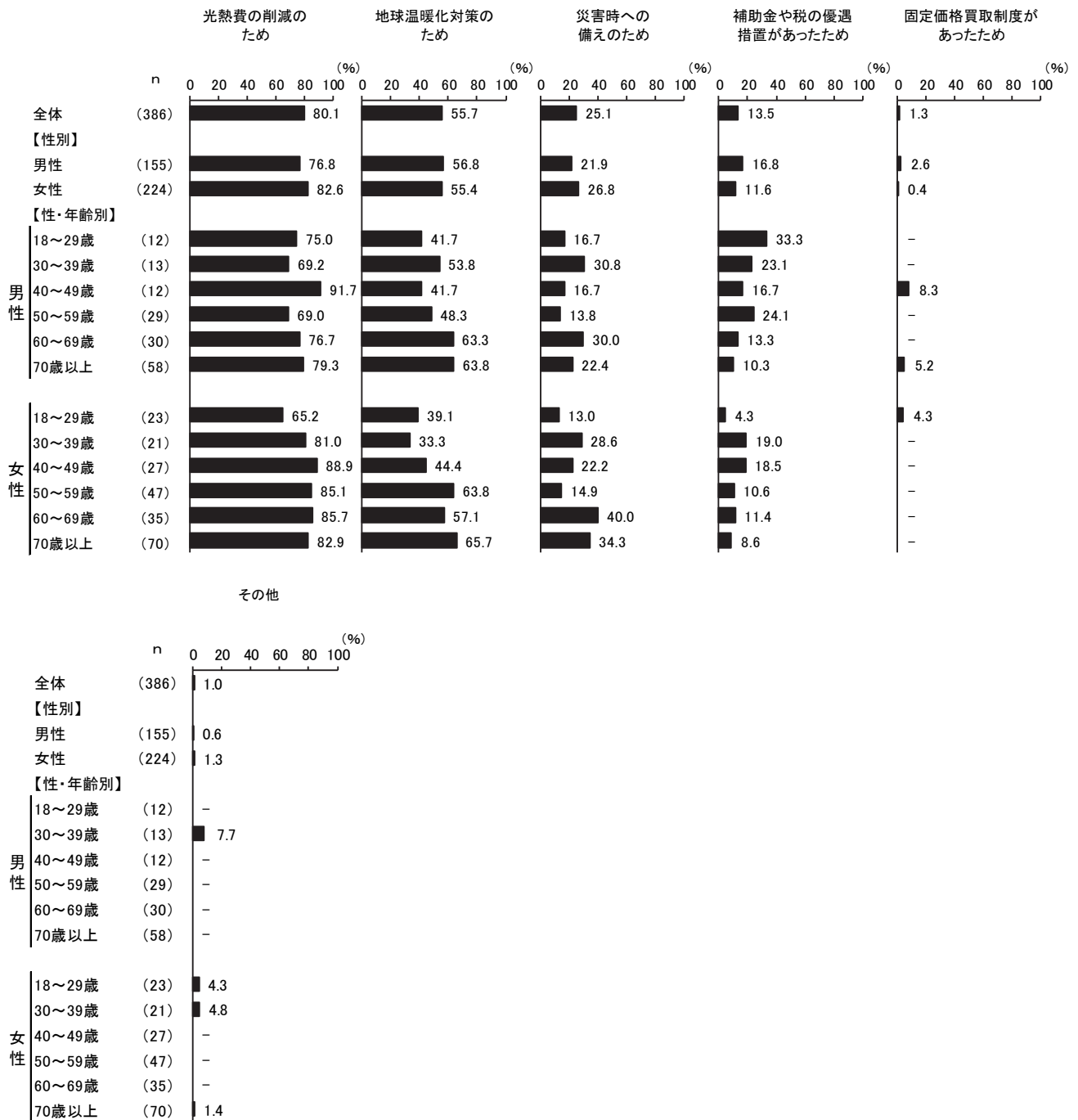
(○は3つまで)

図4-2-3 再エネ・省エネ設備の導入理由



省エネ設備の導入について「既に導入している」または「導入する予定」と答えた方（386人）に、導入理由を聞いたところ、「光熱費の削減のため」（80.1%）が8割で最も多く、次いで「地球温暖化対策のため」（55.7%）、「災害時への備えのため」（25.1%）、「補助金や税の優遇措置があったため」（13.5%）などの順となっている。（図4-2-3）

図4-2-4 再エネ・省エネ設備の導入理由—性別、性・年齢別



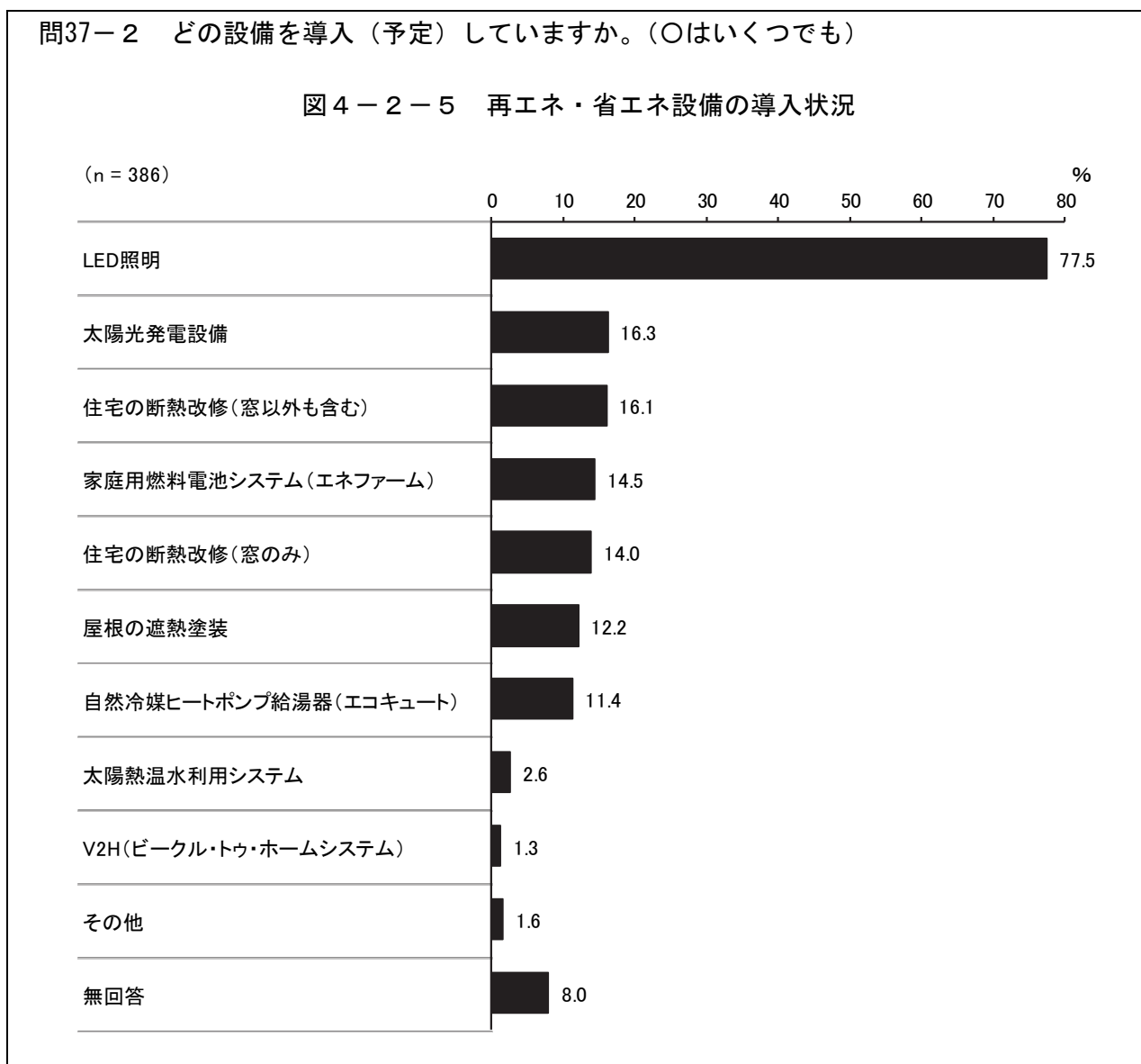
性別にみると、「光熱費の削減のため」は女性の方が男性より5.8ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「災害時への備えのため」は女性60～69歳で4割と多くなっている。

(図4-2-4)

(2-2) 再エネ・省エネ設備の導入状況

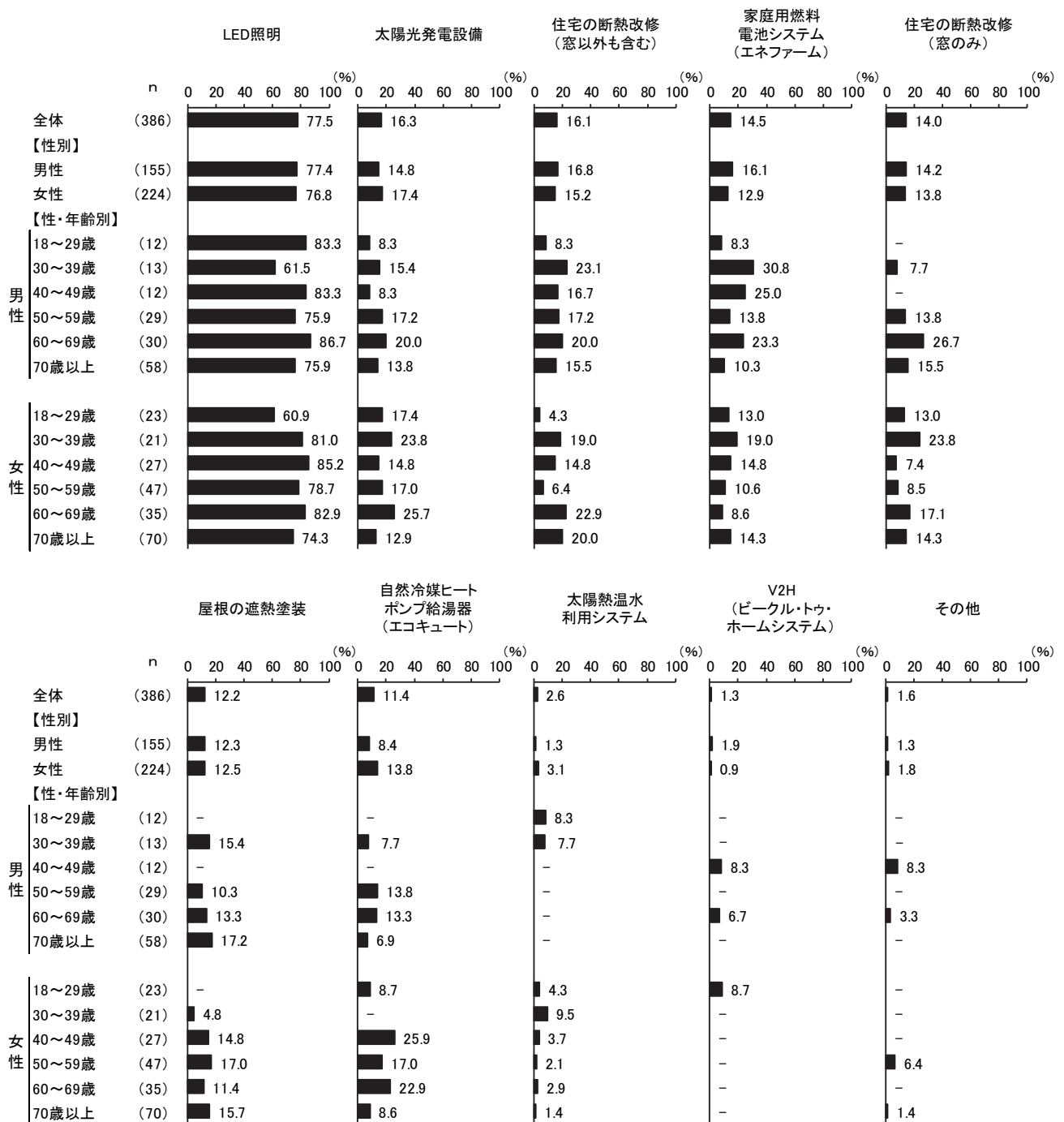
◇「LED照明」が8割近く



再エネ・省エネ設備についてどの設備を導入（予定）しているか聞いたところ、「LED照明」（77.5%）が8割近くで最も多く、次いで「太陽光発電設備」（16.3%）、「住宅の断熱改修（窓以外も含む）」（16.1%）、「家庭用燃料電池システム（エネファーム）」（14.5%）などの順となっている。

(図4-2-5)

図4-2-6 再エネ・省エネ設備の導入状況—性別、性・年齢別

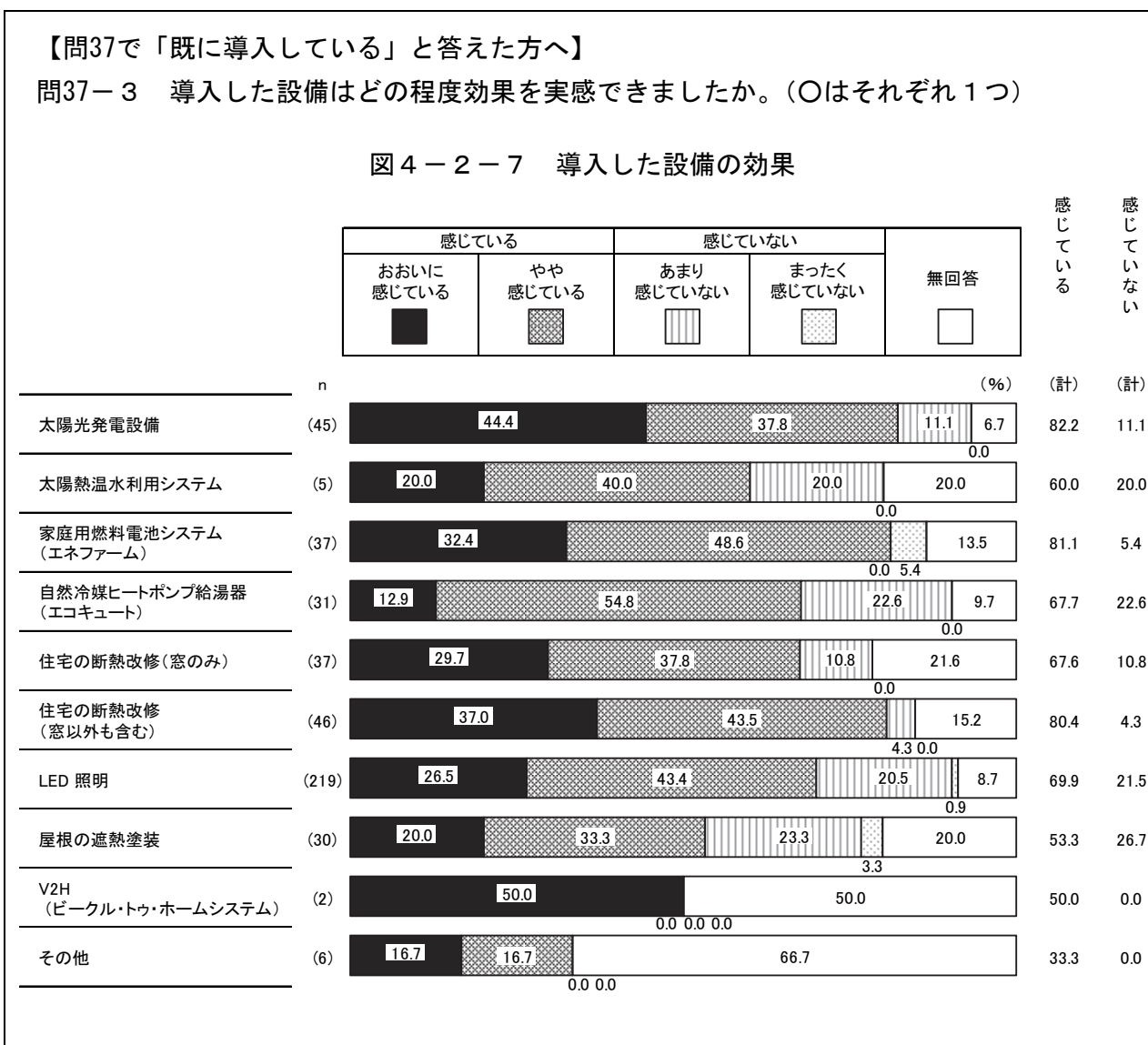


性別にみると、大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「家庭用燃料電池システム (エネファーム)」は男性30~39歳で約3割と多くなっている。(図4-2-6)

(2-3) 導入した設備の効果

◇「太陽光発電設備」で効果を『感じている』が8割を超える



省エネ設備の導入について「既に導入している」と答えた方に導入した設備の効果聞いたところ、「太陽光発電設備」(45人)で「おおいに感じている」(44.4%)と「やや感じている」(37.8%)を合わせた効果を『感じている』(82.2%)が8割を超えている。

なお、性別および性・年齢別の分析については、基数が少ないため掲載しない。(図4-2-7)

(2-4) 再エネ・省エネ設備を導入していない理由

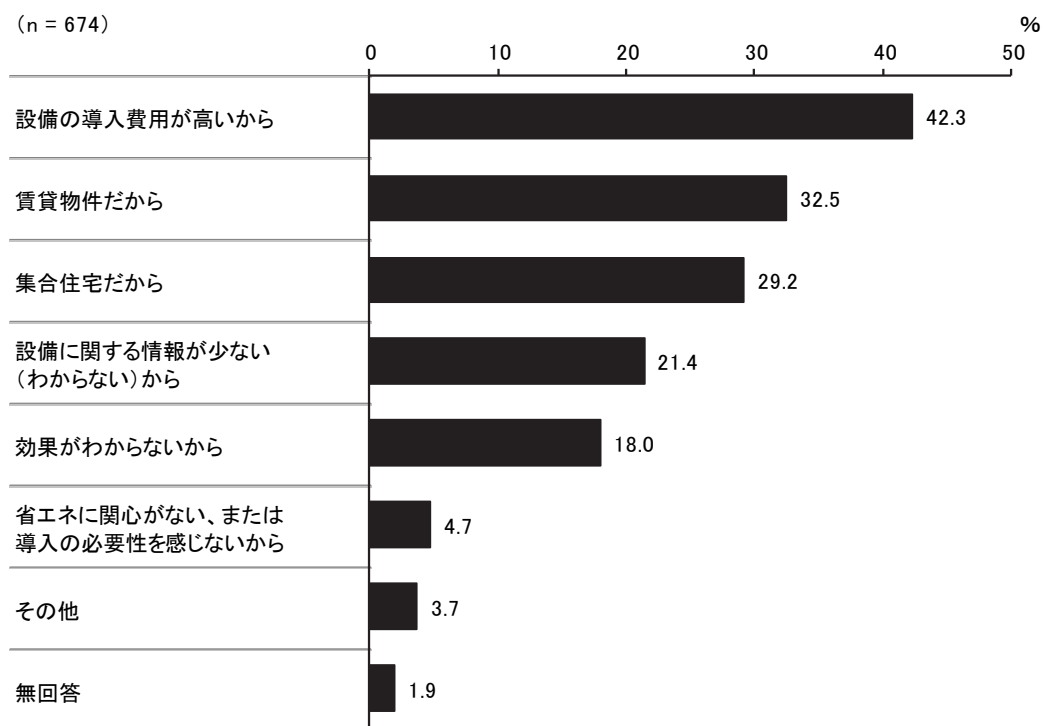
◇「設備の導入費用が高いから」が4割を超える

【問37で「導入していない（導入する予定はない）」と答えた方へ】

問37-4 再エネ・省エネ設備を導入していない理由は次のうちどれですか。

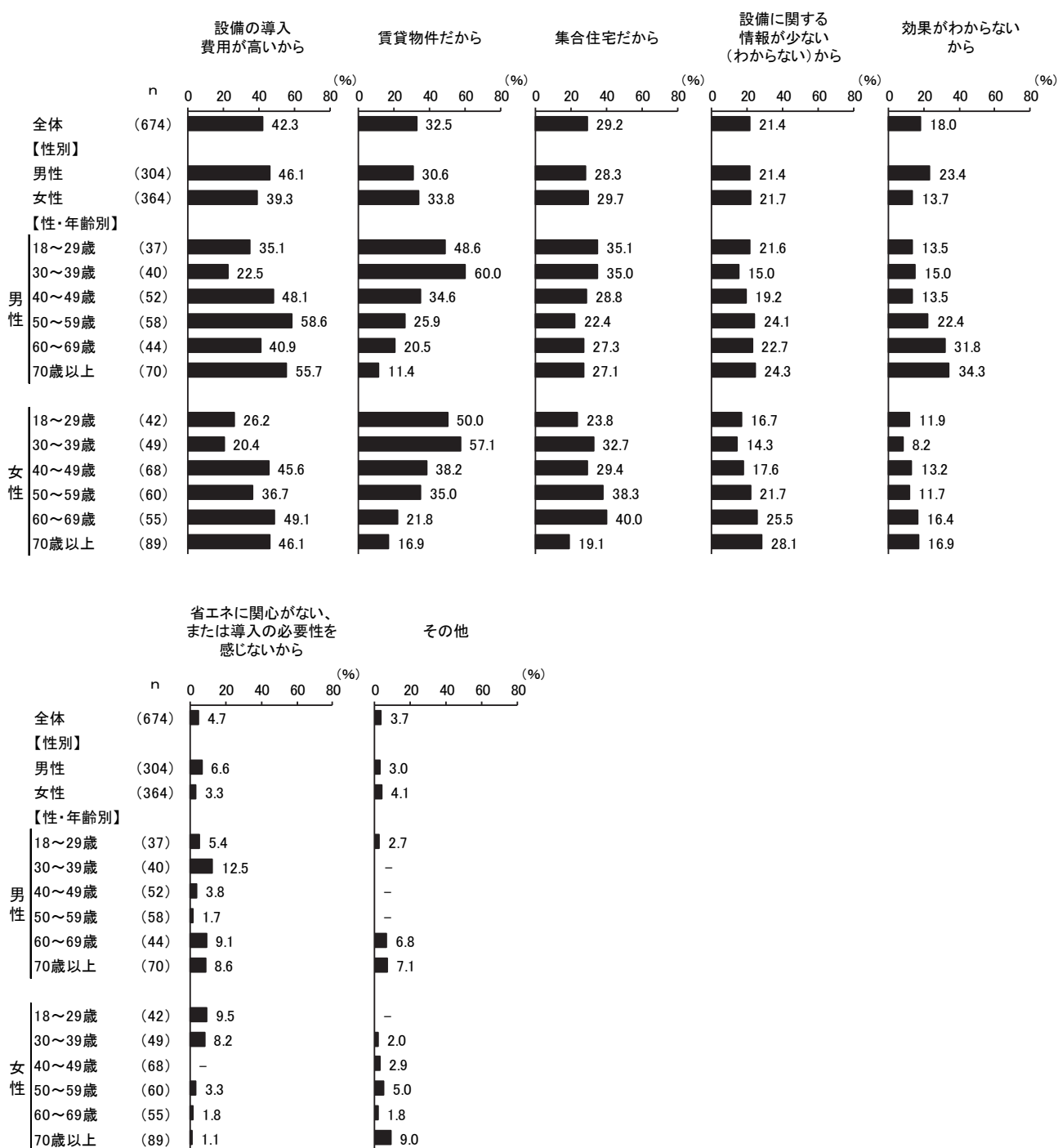
(○は3つまで)

図4-2-8 再エネ・省エネ設備を導入していない理由



自宅での再エネ・省エネ設備の導入について「導入していない（導入する予定はない）」と答えた方（674人）に再エネ・省エネ設備を導入していない理由を聞いたところ、「設備の導入費用が高いから」（42.3%）が4割を超えて最も多く、次いで「賃貸物件だから」（32.5%）、「集合住宅だから」（29.2%）、「設備に関する情報が少ない（わからない）から」（21.4%）などの順となっている。（図4-2-8）

図4-2-9 再エネ・省エネ設備を導入していない理由—性別、性・年齢別



性別にみると、「効果がわからないから」で男性の方が女性より9.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「賃貸物件だから」は男性30~39歳で6割と多くなっている。

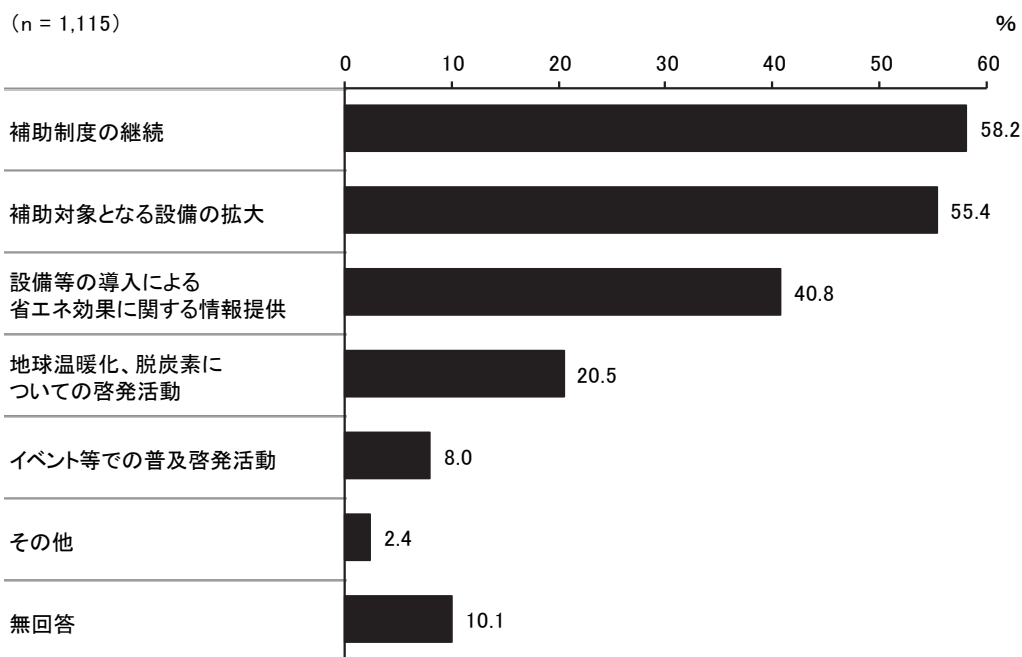
(図4-2-9)

(3) 再エネ・省エネ設備の導入促進にあたり区が力を入れるべき取り組み

◇「補助制度の継続」が6割近く

問38 今後、再エネ・省エネ設備の導入を促進するにあたり、区はどのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

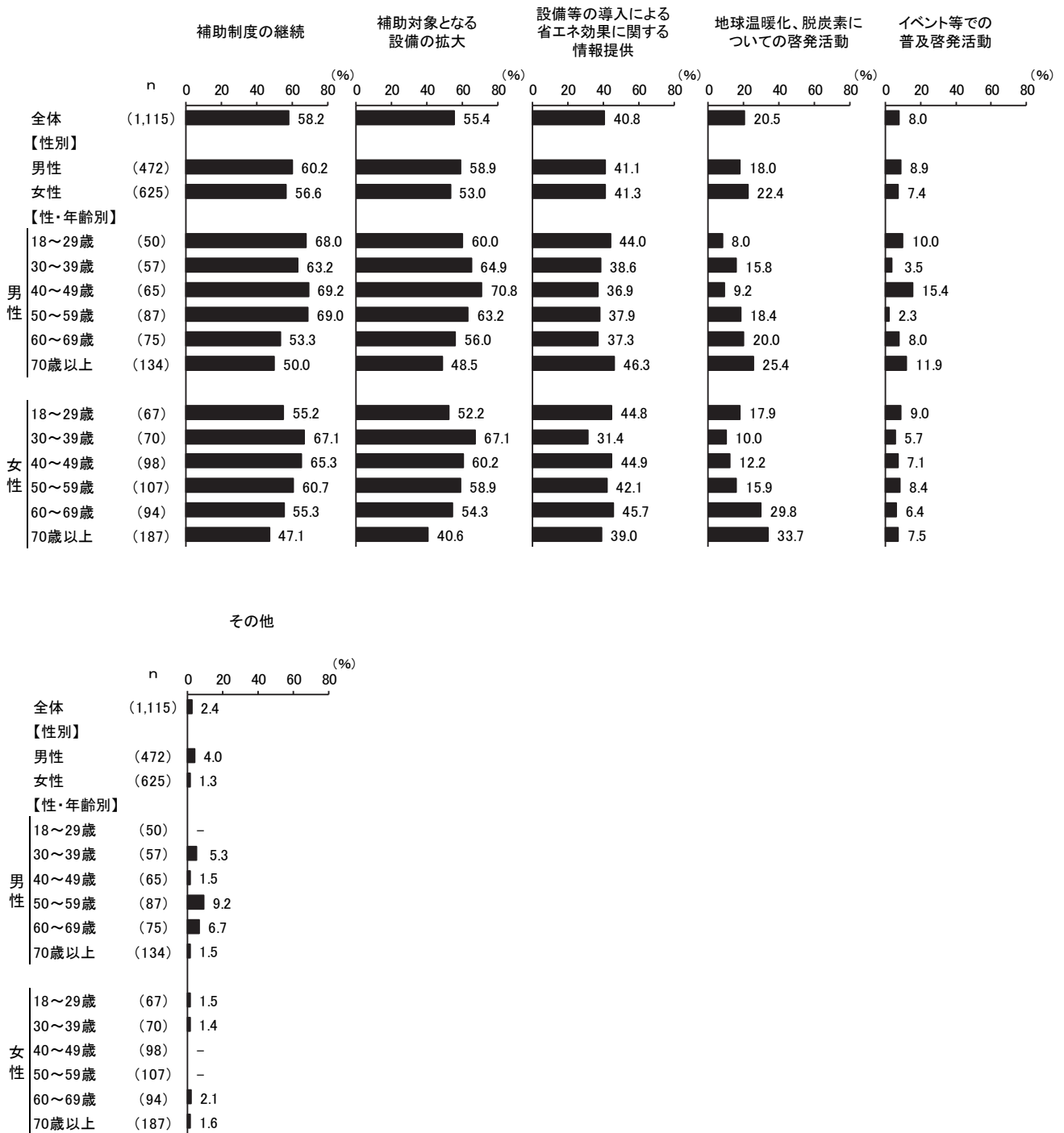
図4-3-1 再エネ・省エネ設備の導入促進にあたり区が力を入れるべき取り組み



再エネ・省エネ設備の導入促進にあたり区が力を入れるべき取り組みについて聞いたところ、「補助制度の継続」(58.2%)が6割近くと最も多く、次いで「補助対象となる設備の拡大」(55.4%)、「設備等の導入による省エネ効果に関する情報提供」(40.8%)、「地球温暖化、脱炭素についての啓発活動」(20.5%)などの順となっている。(図4-3-1)

図4-3-2 再エネ・省エネ設備の導入促進にあたり区が力を入れるべき取り組み

—性別、性・年齢別



性別にみると、「補助対象となる設備の拡大」は男性の方が女性より5.9ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「補助対象となる設備の拡大」は男性40～49歳で約7割と多くなっている。

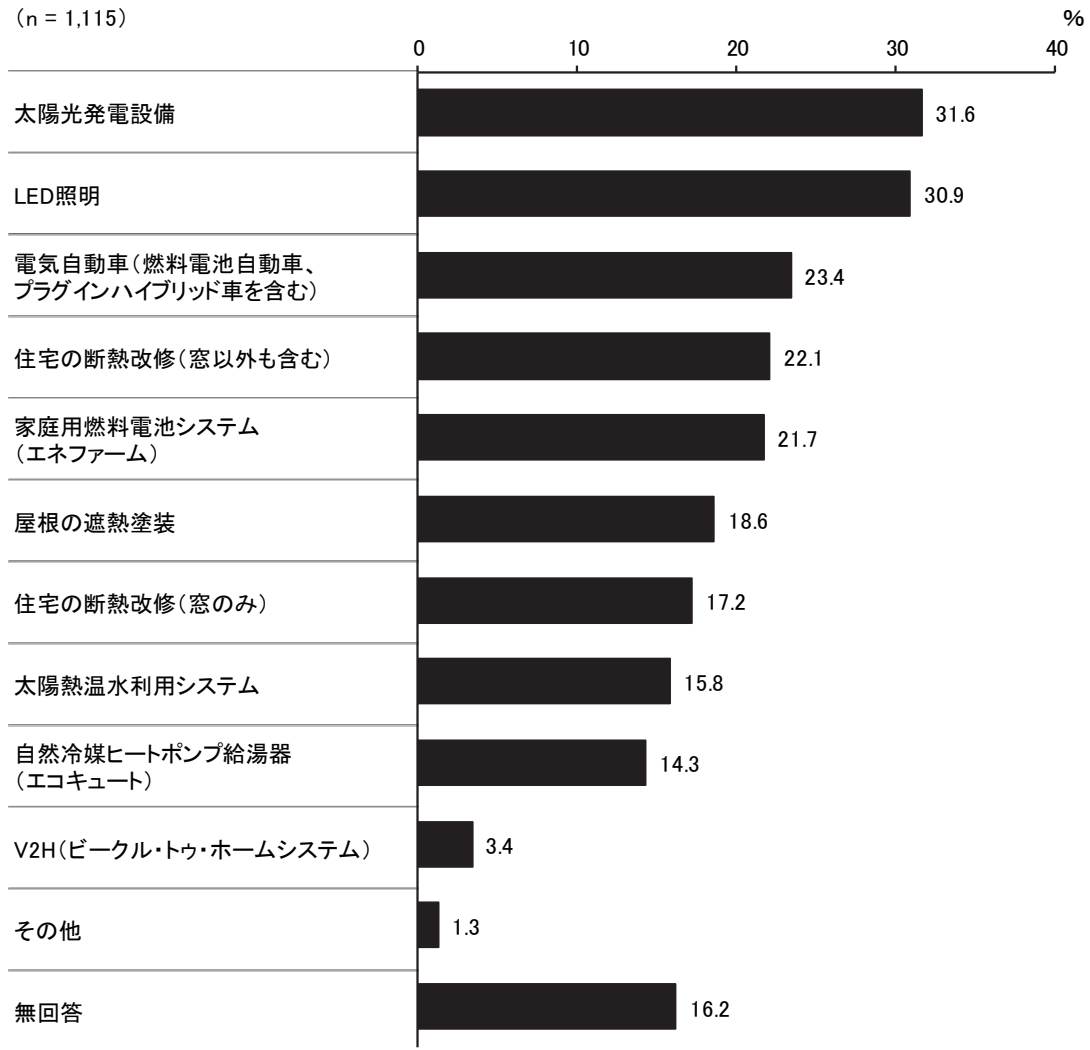
(図4-3-2)

(4) 脱炭素社会の実現に向けて導入したい設備

◇「太陽光発電設備」が3割を超える

問39 脱炭素社会の実現に向け、今後、補助金や税の優遇措置が拡充された場合、導入してみたいものは次のどれですか。(〇はいくつでも)

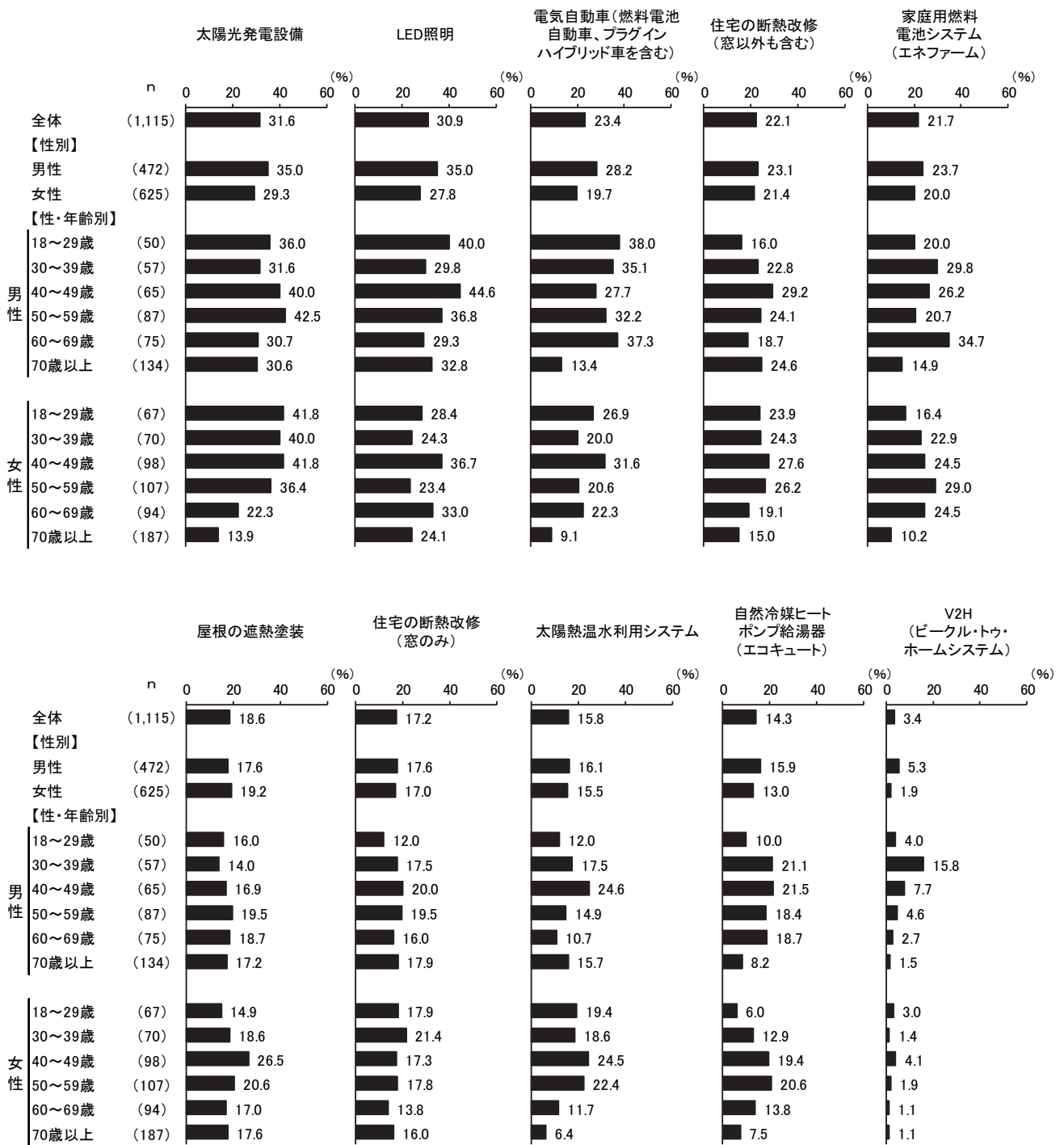
図4-4-1 脱炭素社会の実現に向けて導入したい設備

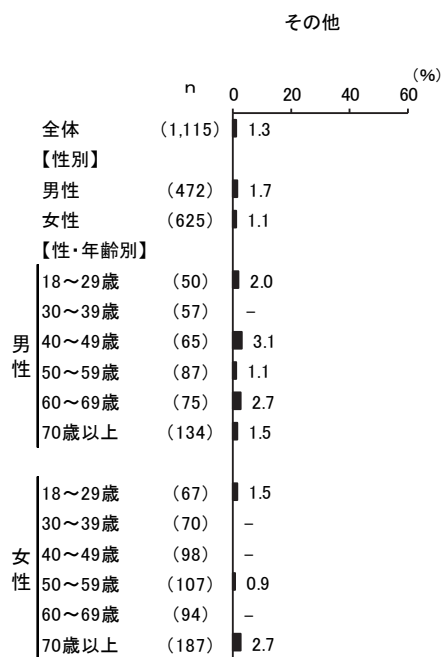


今後、補助金や税の優遇措置が拡充された場合に導入したい設備について聞いたところ、「太陽光発電設備」(31.6%)が3割を超えて最も多く、次いで「LED照明」(30.9%)、「電気自動車(燃料電池自動車、プラグインハイブリッド車を含む)」(23.4%)、「住宅の断熱改修(窓以外も含む)」(22.1%)などの順となっている。

(図4-4-1)

図 4-4-2 脱炭素社会の実現に向けて導入したい設備—性別、性・年齢別



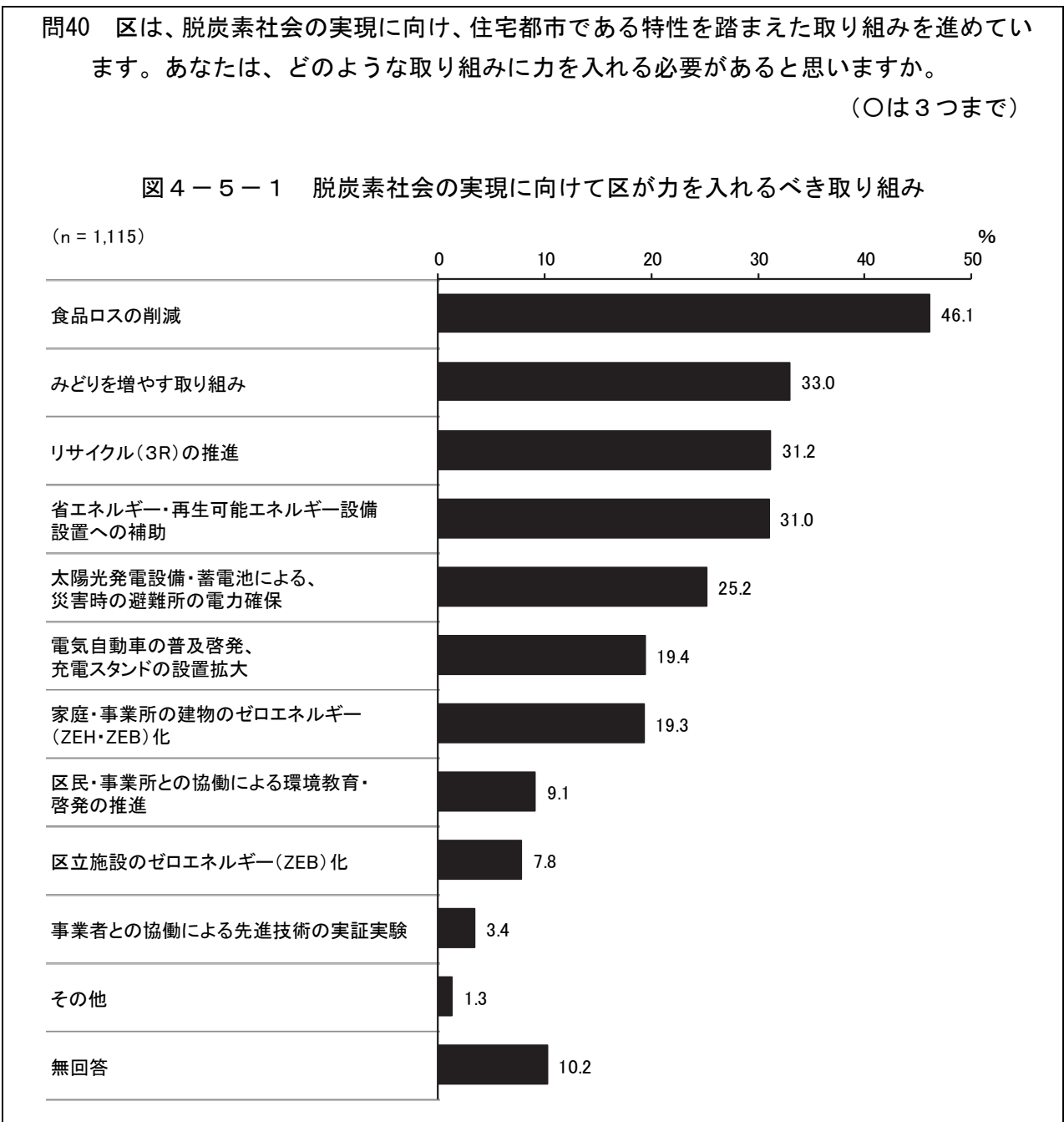


性別にみると、「電気自動車（燃料電池自動車、プラグインハイブリッド車を含む）」は男性の方が女性より8.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「家庭用燃料電池システム（エネファーム）」は男性60～69歳で3割半ばと多くなっている。（図4-4-2）

(5) 脱炭素社会の実現に向けて区が力を入れるべき取り組み

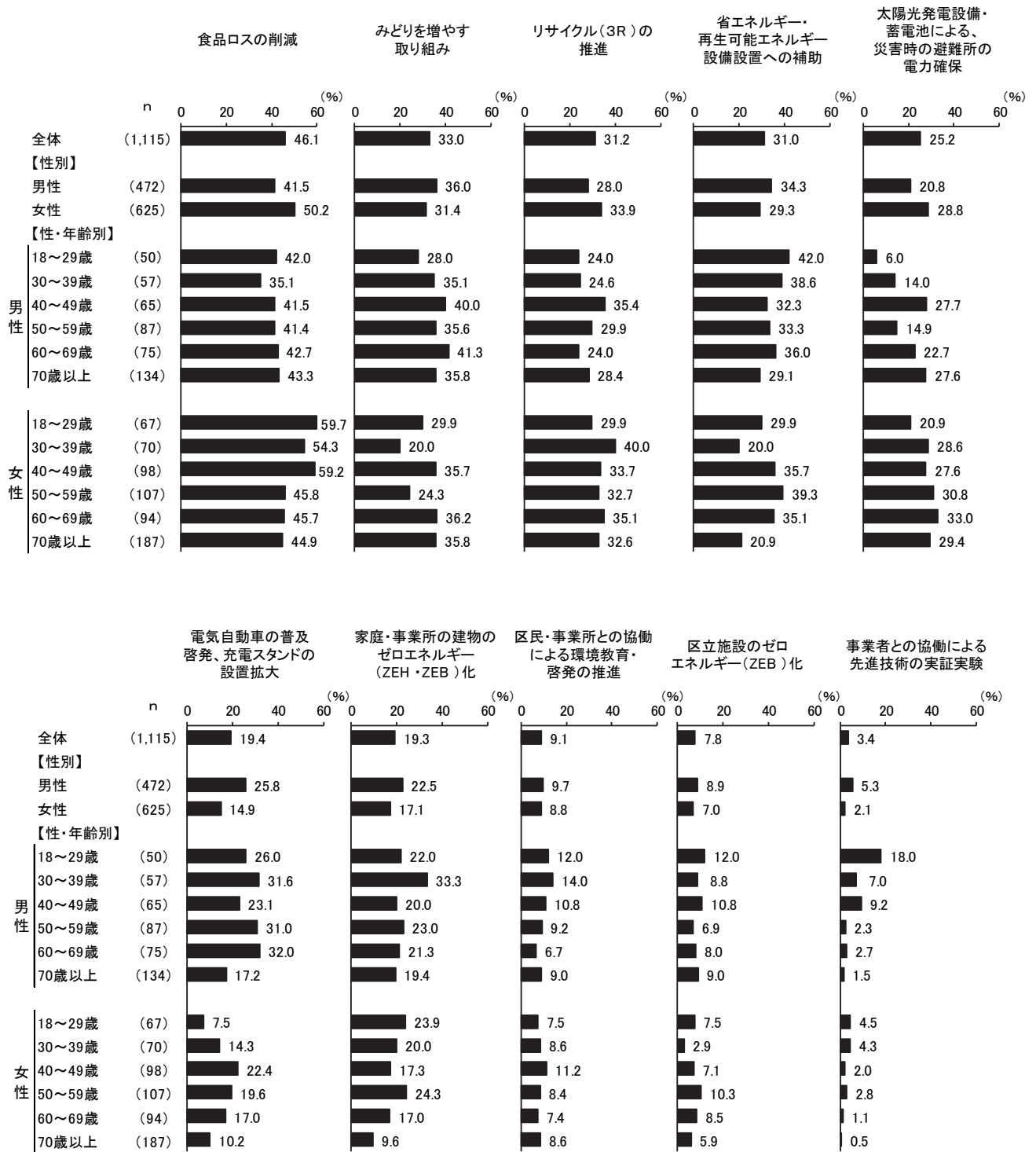
◇「食品ロスの削減」が4割半ば

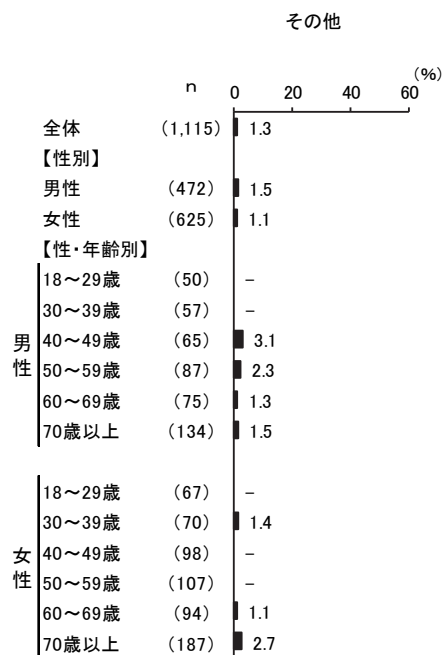


脱炭素社会の実現に向けて区が力を入れるべき取り組みについて聞いたところ、「食品ロスの削減」(46.1%)が4割半ばで最も多く、次いで「みどりを増やす取り組み」(33.0%)、「リサイクル(3R)の推進」(31.2%)、「省エネルギー・再生可能エネルギー設備設置への補助」(31.0%)などの順となっている。

(図4-5-1)

図4-5-2 脱炭素社会の実現に向けて区が力を入れるべき取り組み—性別、性・年齢別





性別にみると、「電気自動車の普及啓発、充電スタンドの設置拡大」は男性の方が女性より10.9ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「食品ロスの削減」は女性18～29歳で6割と多くなっている。

(図4-5-2)